Ⅰ　2016 年度の東洋文庫

2016 年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6 月の評議員会にて、任期満了となった斯波義信氏、中根千枝氏、山川尚義氏の理事 3 名が再選され、杉浦康之氏が新任された。これにより理事は 11 名の体制となった。又、大滝則忠評議員よりは辞任の申し出があり、新たに羽入佐和子氏が評議員に選任された。引き続く理事会にて、代表理事（専務理事）には山川理事が、又、業務執行理事（文庫長）には斯波理事がそれぞれ再任された。職員の異動は無かった。尚、山村義照職員が永年勤続（20 年）の表彰を受けた。

資金運用では、2016 年度中に満期となった債券と、その運用替えは次の通りであった。

(1) 6 月に満期となったクレジットリンク債 3 億円は、従来と同様のクレジットリンク債 3 億円に更新した。利率は従来の 4.00% から 0.45% に大幅に低下し、その利息収入は約 10.5 百万円減少した。
(2) 12 月に満期となったクレジットリンク債 5 億円は、劣後債（実質 10 年満期）で運用した。利率は従来の年間 2.53% から 1.08% に低下し、その利息収入は年間 7 百万円減少した。
(3) 3 月に満期となったクレジットリンク債 5 億円については、全運用資産の約 15 %である 4 億円強を目処に、配当収入目的で高利回りの株式にての運用を行った（内、約 2 億円は 17 年度に入ってから購入）。これにて、当面の配当利回りは約 2.8% を確保出来た。

経費削減には引き続き努力しており、大口の費用項目である電気代金削減の為、電力会社を東京電力より川重商事に変更し、節電努力もあり、前年比約 2 百万円の光熱費削減を実現した。又、本年も名誉文庫員の方 1 名より百万円のご寄付をいただいた。

当文庫は新制度に基づく公益財団に移行して 4 年目となったが、今回初め

て内閣府の立入検査があった。特に、重大な指摘事項は無かった。又、2月には、文部科学省より特定奨励費についての現地調査があった。これも特に重大な指摘事項は無かった。

勉誠出版による「東洋文庫善本叢書」の第2期欧文貴重書として、「ラフカディオハーン、B. H. チェンバレン往復書簡」「東方見聞録（世界の記述）」「重要文化財　ジョン・セーリス『日本渡航記』」の3部4冊の出版が完了した（セット価格税抜き205,000円）。

6階書庫の書架耐震補強工事を、本年度を手始めに数年掛けて実施する事とした。又、澤田美樹氏のご親戚にあたる澤田氏より、絵画等の寄贈を受けた。それらの1部は「もっと知ろうよ！　儒教展」にて早速展示した。

当文庫のデータベースへのアクセス数（訪問数）が月間約70万件となっている。本年度の当文庫の図書の増加は、購入2,389冊、受贈5,490冊、合計7,879冊であった。

10月18日には、ミュージアム開設5周年記念のレセプションを開催した。又、これを記念して、オリジナルのネクタイとスカーフを制作し、ギフトショップで販売を開始した。

東洋学講座は、前期に「医学・衛生学的中国事情」の統一テーマで、「青蒿素（アーテミシニン）の物語―ノーベル賞学者屠呦呦のマラリア研究―」飯島渉研究員（青山学院大学教授）、「公衆衛生学の転換―人は一人では生きていけない―」山本太郎氏（長崎大学教授）、「ローカルな知識から実験医学へ―香港における中医の変遷を中心に―」帆刈浩之氏（沖縄県教育庁文化財課史料編集班主任）、を開催した。
後期には、「江戸の書物文化」の統一テーマで、「活字印刷の選択―キリシタン版を例として―」豊島正之氏（上智大学教授）、「ヨーロッパの人びとを魅了した日本の園芸―江戸の植物絵本と名所図会にその源を見る―」江南和幸研究員（龍谷大学名誉教授）、「近世出版文化のなかの絵図・地図―海洋把握の変容と「日本」―」杉本史子氏（東京大学史料編纂所教授）、を開催した。

シンポジウム等としては、9 月に第 5 回総合アジア圏域研究国際シンポジウム「アーカイブの内と外―当代中国研究の新展開」を開催し、12 月に 2 日間の国際シンポジウム「絵入り本と日本文化」を開催し、1 月にアジア資料学研究シリーズとして「モリソンコレクション将来 100 周年記念―紙料調査の意義と課題：コディコロジーの未来をみつめて―「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」を開催し、3 月にモリソン文庫渡来 100 周年記念プロジェクト「モリソンパンフレットの世界」を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物 8 冊に加え、オンラインジャーナル 1 件・論叢類 7 冊・研究データベース 2 件を発刊・公開した。又、各種研究会を計 231 回開催し、合計参加人数は 2,277 名であった。受入れ外来研究者 10 名、外国人研究者への便宜供与は、アメリカ、中国、デンマーク等 6 カ国より 59 名であった。日本学術振興会特別研究員 PD・RPD として 4 名を受け入れた。

人間文化研究機構による「現代中国地域研究」は、発足より 10 年を経過し、本年度末をもって終了する事となり、相原佳之氏の出向も本年度末で終了した。又、当文庫に駐在する仏極東学院の研究員として、フランソワ・ラショー氏が着任した。日独シーボルト・シンポジウム（同実行委員会主催）を共催した。

ハーバード・エンチン図書館・研究所に対して、当文庫は毎年研究員 3 名の派遣応募の資格を得ているが、本年度は 1 名応募したものの、不合格となった。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催しており、本年度は計 33 講座を開講し、延べ受講者 294 名であった。更なる規模の拡大に努めたい。

ミュージアムでは、

(1)「解体新書展―ニッポンの「医」の歩み 1500 年―」（2016 年 1 月 9 日～4 月 10 日）
(2)「もっと知ろうよ！　儒教展」（2016 年 4 月 20 日～8 月 7 日）
(3)「本のなかの江戸美術展」（2016 年 8 月 17 日～12 月 25 日）

江戸美術に関わる国際シンポジウムを開催し、ポーラ財団より 2 百万円の助成金が交付された。

(4)「ロマノフ王朝展―日本人の見たロシア、ロシア人の見た日本―」(2017 年 1 月 7 日～4 月 9 日)

関西・大阪 21 世紀財団（大阪万博財団）より 2.6 百万円の助成金が交付された。

を開催し、年間計 33,082 人の入場を得た。それぞれの図録を「時空を超える本の旅」シリーズで発刊した。又、これらの展示に関連した講演会、ワークショップ、ジュニア・プログラム、演奏会等を約 20 回開催した。

ミュージアムの企画・運営をより良いものにすべく、諮問委員会を発足した。委員長は福田康夫元首相、委員は彬子女王、ドナルド・キーン氏、青柳正規氏、山本寛斎氏、亀山郁夫氏、姜尚中氏、西本智実氏、元良信彦氏、の 8 名で、諮問委員会は 2016 年 5 月と 2017 年 2 月に開催した。尚、委員である、ドナルド・キーン氏は浄瑠璃の講演会、西本智実氏は合唱公演会、亀山郁夫氏には講演会を開催していただいた。

富士ゼロックス社の協力を得て、「戸田浦における露国軍艦建造図巻」の精密複写絵巻を制作した。この精密複写絵巻は、12 月に来日したロシアのプーチン大統領に、安倍首相から贈呈された。その際当方関係者が首脳会談が行われた山口に出張した。又、本年もミュージアムには、程中国大使夫妻をはじめ、多くの VIP の訪問を得た。

日本漢字能力検定協会による「漢字ミュージアム」が 6 月 29 日に京都に開館したが、ここに当文庫の甲骨文字を貸与し、「東洋文庫コーナー」を作った。

成蹊大学図書館における東洋文庫の展示は本年も継続した。又、シーボルト・ガルテンの新たな造形展示物（本年度の東洋文庫賞）は、東京藝術大学大学院森木ノ実氏の卒業作品「fanatic」となった。

NHK の人気番組「探検バクモン」で取り上げられた他、ミュージアムの展示について多数の新聞・雑誌報道があった。本年も、月刊のメールニュースの発刊、東洋見聞録の刊行を行った。

4 月と 11 月には、六義園のライトアップにあわせた展示「六義園をめぐる歴史」を追加展示した。又、雛人形の特別展示も実施した。三菱商事は、昨年に引続き、株主優待として、東洋文庫ミュージアム無料招待券を配布し（後日精算）、これにより数千人の入場者をみた。

本年も年 3 回の展示サイクルに合わせて、ミュージアムのインターンとして毎回 2～3 名の受け入れを実施した。又、2 月の理事会にて、普及展示部を担当する業務執行理事は、対外的には「ミュージアム館長」と称する事となった（「組織運営規程」の一部改定）。

以上